

令和7年度 支援学校 仙台みらい高等学園 第2回学校評議委員会

●日 時 令和8年2月27日（金）午後3時00分～午後4時30分

●参加者【本校】 野崎校長、藤原副校長、菅野教頭、松寿、相澤、百井、菅原、鈴木、菊田
福田、布川、佐藤、川崎、阿部、和泉

【評議委員】以下参照

●会 場 支援学校 仙台みらい高等学園 寄宿舍食堂

●内 容

1 校長挨拶（野崎）

- ・今年度も残り2週間となったが、生徒は大きなけがや病気もなく学校生活を送ることができている。
- ・令和8年度入学者において、本科は定員を超える出願があり24人の定員を充足する予定で、専攻科については若干の募集枠が残っている。本科は不合格を出さざるを得ない状況から、校長会では「入学するのが難しい学校」という声も聞かれる。私立なので学費が高いという印象を持たれているが、学園の減免制度を設け、学費観点で入りにくさは解消の努力を行っている。後ほど、減免制度について説明させていただく。
- ・進路については、多くの生徒が希望する進路に進むことができている。

2 評議委員紹介

- | | | |
|--------------------------|------|-------------|
| ・全国農業協同組合連合会 耕種総合対策部 | 次長 | 岩田 和彦 様（欠席） |
| | 事業所長 | 阿部 浩人 様（代理） |
| ・社会福祉法人共生福祉会 萩の郷福祉工場 福祉部 | 部長 | 高橋 康弘 様（欠席） |
| ・仙台市青葉区荒巻町内会 | | 菊地 希壽 様 |
| ・株式会社ガモウ 広域エリア営業部 東北エリア | 統括 | 井上 英治 様 |
| ・宮城学院女子大学 教育学部教育学科 | 教授 | 梅田 真理 様 |

3 分掌年度反省報告

【活動方針、活動目標、達成率】 ※資料参照

【課題と次年度に向けての改善策】 ※各分掌部、以下参照

【教務部】（菅原）

- ・講師への理解共有が十分でない点が課題。
- ・諸帳簿様式の定型化による業務効率化を目指す。
- ・職員会議参加率向上のためのスケジュール調整を行う。
- ・大型行事要項の見直しと情報共有機会の確保をする。

【生徒指導部】（百井）

- ・地域移行の部活動チーム開拓が十分にできなかった。

- ・生徒指導フローチャート作成による指導の統一を図る。
- ・申請手続きの周知強化（SankoGate 等）を行う。
- ・生徒会活動の主体性向上を目指す。
- ・余暇活動や体験活動の充実を目指す。
- ・SNS を活用した活動発信を行う。

【進路指導部】（鈴木）

- ・校内連携のさらなる強化をする。
- ・進路指導部の組織体制を明確化する。
- ・一般就労だけでなく福祉分野との連携を強化する。
- ・専攻科進学を見据えた支援体制の構築を行う。

【地域支援部】（福田）

[支援]

- ・宮城教育大学・東北大学学生のボランティア活動の促進を図る。
- ・カウンセリングについて生徒の授業時間との調整や必要なときに利用できる体制を検討する。

[研究]

- ・研修の属人化を防ぐ体制整備を行う。
- ・授業改善につながる振り返り研修の導入をする。
- ・校内実態調査を学校評価に一本化し、評価手続きの整理と改善結果の還元を図る。

【防災環境整備部】（相澤）

[防災環境整備]

- ・防災設備の実践的な使用訓練を行う。
- ・危機管理マニュアルとの連動を行う。
- ・修繕対応の優先順位と進捗管理を明確化する。

[保健]

- ・受診率の低下が課題。
- ・保健室利用ルールの曖昧さが課題。
- ・受診勧告書の工夫を行う。
- ・三者面談での保護者への周知を行う。
- ・保健室利用の学校の方針を明確化する。

【事務部】（川崎）

- ・出願情報入力の複数チェック体制を整える。

【舎務部】（和泉）

- ・行事準備の計画的実施をする。
- ・職員間の共通認識の強化をする。

【広報部】（和泉）

- ・職員への広報研修を継続する。
- ・SNS 強化（YouTube 活用）を目指す。
- ・県内外への広報拡大講師への理解共有が十分でない点が課題。

4 学校評価（布川）

- ・分析、考察 ※資料参照

【改善策】

- ①適切なコミュニケーションの指導を継続する。
- ②教職員研修体制の整備をする。
- ③芸術文化活動の機会拡充を図る。

5 いじめアンケートについて（百井）

- ・対象生徒聞き取り内容、考察、改善策 ※資料参照

6 進路指導について（百井）

- ・令和7年度一般就労希望者進路決定状況、進学希望者進路決定状況、進路決定状況まとめ、考察 ※資料参照

【令和8年度に向けて】

本科3年課程および専攻科2年課程との5年一貫教育における進路指導方針を見直し、全教職員が統一した指導体制を確立するとともに、就労先企業や専攻科進学先を早期に決定し、各自の課題に主体的に取り組めるようにする。

7 みらい就学支援制度拡充について

※資料参照

- ・中学校・高校への周知を進めていく。

8 質疑

なし

9 指導助言

【阿部様】

- ・各分掌部目標の達成率において、事務部の50%の低さが注目されるが、改善策をもとに対応をお願いしたい。
- ・広報部について、卒業生が社会で活躍している状況を踏まえ、OBOGを活用した広報活動や卒業生の声をフィードバックする取組を行うとよいのではないかな。
- ・進路について、JA全農として食品や農業分野の進路先拡大に向けて協力していきたい。

【菊地様】

- ・生徒の挨拶については指導の成果が見られ、地域でも挨拶をしてくれる生徒が多い。
- ・2～3 年、校内のごみが目立つことがあるため、生徒へ日常的に意識づけを行う必要がある。
- ・授業で石拾いを行っている一方で、ごみや石をそのままにする様子も見られるため、日常生活の中で気づいたごみや石を拾うなどの行動を促すことが望ましい。
- ・生徒が元気に活動し、身近な環境を大切にする意識を育てていくことが重要である。

【井上様】

- ・インターンシップ受入協力可能である。
- ・美容分野体験の提供も可能ある。

【梅田様】

- ・到達目標を設定し達成度を示している点は評価できる。今回の反省を次年度の学校運営や指導改善につなげ、評価が評価で終わらないようにしてほしい。
- ・教職員の異動がある中でも、一定の指導水準を維持するため、教職員間で最低限の共通理解をもち、重点を定めた支援・指導を行うことが重要である。
- ・保健室利用が多いことについて、生徒が自らの健康管理を行い、体調不良やけがの際に適切に相談できるよう指導する必要がある。
- ・進路指導については、生徒と保護者が早期から話し合い、5 年間を見通した進路計画を立てるよう働きかけることが望ましい。

1 0 副校長挨拶（藤原）

- ・教職員人事の観点で、昨年度と今年度で退職・異動者があったことに伴い、年度途中での入職者が多くあり、学校運営上難しい面が多分にあったのだが、教職員各々が努力してくれたことによって、ここまで運営することができた。
- ・今年度修了する専攻科2年生の入学タイミングから入学資格を変更したことから、この間の検証を行っていく必要性を感じている。本科入学生は公立校との差別化、専攻科はこれまでも高校からの入学者が多くいることから、私立校としての生き残り戦略に繋がっていくと考える。
- ・学校評価の保護者アンケート自由記述欄では、学校の指導や支援に対する肯定的な意見が多数あり、教職員にとってとても励みになるものだった。一方、課題もあるため今後の改善につなげていく。
- ・来年度はコースや教育課程再編および学校日課変更による授業時間の 50 分化を予定している。本年度反省をもとに早期に人員体制を整え、次年度に向けた準備を進めている。